

## P-75 難病におけるホメオパシー治療併用の効果とその意義—種々の精神的困難を伴ったクローン病の1例から

○竹中恵美<sup>1</sup> 森 修司<sup>1</sup> 野末 睦<sup>1</sup> 細谷律子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>庄内余目病院ホメオパシー心身外来, <sup>2</sup>細谷皮フ科

【目的】ホメオパシーは「類は類を癒す」という同種の法則に基づき、患者の症状のみならず、全体的な傾向や特徴を包括的に理解し、最も似た特徴を示すホメオパシー治療薬(レメディ)を用いることで、身体/精神/霊性の調和の根本的回復をもたらす治療体系である。我々は難病や難治性疾患の患者に現代医療と併せて本治療を行っている。種々の精神的困難を伴ったクローン病の患者の治療経験からその効果と意義を示したい。

【症例】24歳女性、18歳時に不明熱を認め、その後下痢、会陰部痛、口腔内アフタが見られ、大腸型クローン病と診断。難治性複雑痔瘻を合併し、同部感染から敗血症に至ったが保存的治療で救命され、更にInfliximab(抗TNF- $\alpha$ 阻害薬)で症状が改善した。しかし、抑うつ、不安が強まり、22歳時ホメオパシー治療開始となった。既往に中学高校時長期の不登校、又クローン病の成分栄養法導入困難を契機とした神経性食思不振症で精神科入院歴がある。

【方法】ホメオパシーの新しい問診洞察法「ボンベイメソッド」を用い診察し、最適なレメディを選び投与した。

【結果】クローン病の症状はホメオパシー治療導入後も緩解を維持し、約3ヵ月後Infliximabを中止できた(約2年間投与)。中止後も現在まで2年以上の緩解(CRP<0.01)を得ている。精神的にも安定し、過去を含めた内省が進み、病気を受容と治療や将来への主体的な取り組みが見られている。

【結論】クローン病は若年者に好発する未だ原因不明の炎症性腸疾患であり、近年新薬が開発されるも、手術率が高く、患者のQOLが問題となっている。本症例はクローン病発病以前より不登校など様々な精神的問題があり、身体的改善のみならず、より包括的な回復が必要と考えられた。難病の治療におけるホメオパシー併用は、患者の身体的自然治癒力を高め、内的な調和をもたらすことにより長期の緩解維持やQOLの改善に有用である可能性が示唆された。

## P-76 スピリチュアリティの医療化問題—補完代替医療領域の医療人類学調査から

○辻内琢也<sup>1</sup> 谷口 礼<sup>2</sup> 中上綾子<sup>2</sup> 前田未加子<sup>2</sup>

佐野文哉<sup>3</sup> 古閑光浩<sup>2</sup> 辻内優子<sup>4</sup> 鈴木勝己<sup>1,5</sup>

<sup>1</sup>早稲田大学人間科学学術院, <sup>2</sup>早稲田大学大学院人間科学研究科, <sup>3</sup>早稲田大学人間科学部健康福祉科学科, <sup>4</sup>ポレボレクリニック, <sup>5</sup>千葉大学大学院社会文化科学研究科

【目的】1998年WHO健康憲章改正案として提出された「スピリチュアリティ」という用語は、我が国では特に緩和医療や補完代替医療領域において歓迎された。人生の意味、絶対的な存在とのつながりと力、畏敬の念、統合性と一体感、心の平安と安寧、希望や信仰、など多様な意味を含みながらも、民族・宗教・価値観の相違を超えた普遍的概念として定義されつつある。一方、従来のWHO健康定義に「社会的に良好な状態」の実現が提唱されていることに對し、医学や健康の専門家に政治的・経済的・社会的なものを含んだ問題を任せてしまう危険性も指摘されている。Illich(1975)が指摘した「医療の知識と技術が、臨床の場を超えて人々の日常生活に浸透していき、直接的には医療と関わりのない様々な活動においても医療専門家が大きな権限を持つようになること」すなわち『医療化(medicalization)』の問題である。本研究では、スピリチュアリティが扱われることの多い補完代替医療領域への医療人類学調査から、この問題性を明らかにする。

【方法】スピリチュアリティを自身の治療的価値観の中に位置付けている補完代替医療治療者(医師・柔道整復師・鍼灸按摩師・ヒーラー・巫女)の臨床現場へのフィールドワーク、治療者および彼らの患者らへのインタビュー調査を行った。

【結果】慢性の病いを抱え、死を目前に苦悩している人々に対し、死後の世界の存在やひとの生きるべき道について教えようとするスタンスが治療者達に顕著に認められた。これはM. Foucault(1975)の言う師牧者権力に相当し、苦悩する生活者の相談を受ける中で、人々の人生だけでなく死後の世界まで支配してしまう権力性に該当する。

【結論】医療における「スピリチュアリティ」の扱いは極めて慎重に行われるべきであり、臨床現場での患者支配に使用されることのないよう厳重な注意が必要だと考えられた。